

# 東京邑南町 ふるさと会通信

発行日 令和2年10月10日  
 号数 第4号  
 発行 東京邑南町ふるさと会  
 発行人 半谷豊 編集人 三宅良一  
 事務局 千葉市緑区高津戸町309・44

## 第七回総会が

### 開催される

令和元年11月9日第七回東京邑南町ふるさと会総会が、東京大手町サンケイプラザで開催されました。

半谷豊会長が体調不良で急遽欠席。岡部健副会長（井原出身）に、代わりにご挨拶頂きました。会場で突然お願ひしましたが、突然のこととは思えない、ご挨拶、福祉について造詣の深いお話でした。邑南町から遠路お越し頂いた日高輝和副町長、中村昌史町議会副議長には、故郷の近況をお話しいただきました。島根県東京事務所からは、川本ご出身の佐々木文雄産業振興部長にご出席いただき、島根県の近況を伺いました。

事業報告・会計報告が無事承認され二部は懇親会。岡部副会長の司会で、参加者から近況や、健康のお話があり和やかな雰囲気、邑南弁で語り合いました。毎回恒例の、日本橋しまね館に出店頂き、赤天や、わかめや、めのは、玉桜や池月、普段なかなか手に入らない県内の農産物を皆さんお土産に買われていました。



東京邑南町ふるさと会

会長 半谷豊(口羽出身)

今年の「東京邑南町ふるさと会」総会は、残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とさせて頂くことになりました。

新型コロナウイルスの蔓延でオンラインピックの延期等、悪いニュースが多い今年です。私も三月から外出を控え、出掛けるのは買い物だけにしております。

先日は母親の見舞いに帰省しようと思ひ、弟に相談すると、「東京から帰るのは遠慮してくれ」との事でした。

また、七月には江川が大水害で、邑南町がテレビニュースに出たのを見て、田舎に電話をすると「この方は、なんもないよ」とのこととで安心しました。

来年は「東京邑南町ふるさと会」総会を開催したいと思ひます。皆様の御出席を、お待ちしております。

来年は、面白い何かがあるかも…。

故郷への思い

三宅光寛(矢上出身)

昨年、中国の武漢に発生し、瞬く間に世界に感染が広がった新型コロナウイルス(武漢ウイルス)により、日常生活の行動が抑制され、在宅勤務(テレワーク)、手洗い、マスク、うがい等でストレスを感じている方もおられるのではないのでしょうか。

そのような時、昨年母を亡くし、本年三月に一周忌を迎え、法要を故郷邑南町で執り行い予定を立てていました。新型コロナウイルスにより、帰省するかどうかギリギリまで思案を巡らせていました。

その当時島根県ではまだ、新型コロナウイルスの感染が発生しておらず、私たち東京で暮らしている兄弟妹は、故郷にコロナウイルスを持ち帰らないために、帰省を断念せざるを得ませんでした。

因って法要は邑南町に居住する兄弟だけで執り行いました。来年の三回忌法要には帰省したいと思っておりますが、新型コロナウイルスは島根県で二十九名、東京で一四〇二二名(八月四日現在)と収まる様子が見えない今日、自らが感染しないように気を付けて生活してします。

話は変わりますが、皆様方にご協力頂いておりますが、毎年四五〇名を超える参加者を得て盛大に実施されている、恒例の島根県人会総会が本年は中止と相成り、楽しみにしておられた方も多くいらしたのではと思ひますが、こちらも残念です。

私は本年「古希」を迎え、八月のお盆休みに故郷「いこいの村しまね」での同窓会を楽しみにしていましたが、同窓会も中止になりました。

いずれも正しい判断だとは思ひます。又、私はパートではありませんが、老人ホームで働かせて頂いております。ホームも新型コロナウイルス対策で、楽しみにしておられた入居者と、その家族との面会が最近まで規制されておりました。

解除されたとは言え、それでも一家族何十分と制約が掛かっている面会です。感染予防とは言え、やるせない気持ちです。早く終息するのを願っている今日この頃です。

福祉でつながる

邑南町

邑南町ふるさと会

副会長 岡部健(井原出身)

「地域で支え合い誰もが健康で生涯元気なまち」。これは邑南町が地域保健福祉計画で掲げている「みんな幸福(しあわせ)プラン」のスローガンです。邑南町は農業を基盤産業としつつ、「日本一の子育て村構想」を掲げ、自然の豊かさをアピールした観光振興や人口増加に向けた定住政策に力を入れるなど活気のある取組みをされています。これらの取組みは邑南町出身の方であればすでにご存知のことだと思ひますので、今回私は邑南町の「福祉」に注目してみたいと思ひます。

まずは統計的な話になります。邑南町の総人口は1万435人(令和2年6月30日時点)、世帯数四八三一世帯で、高齢者人口は四八〇一名(平成26年実績)、高齢化率44.4%(65歳以上の人口比率)となっています。平成26年時点の要介護認定者は一一三八人(23.5%)、身体障害者手帳所持者は八一一人、療育手帳所持者は一五五名、精神保健手帳所持者は九十五名で自立支援医療は一八九名の方が対象となっています。また、平成22年の国勢調査でみた産業別就業者数は総数五九四二人で、農業林業一三九六名、医療福祉一一九八名、卸売業小売業



五九七人、製造業五九七人、建設業五三〇人などとなっていています。  
 この統計値から私が言いたいことは、一つは人口の半数近くが高齢者ですが、要介護認定者は23.5%であり、8割近い方が康寿

の就業者が多いということですが、冒頭で紹介した、邑南町の地域保健福祉計画を見ると、国の法制度に応じた障害保健福祉サービスがしっかりと地域で展開されているように思いました。

命の長い元気な高齢者が多いということ、二つ目は障害がある方が約一〇〇〇人(総人口の約10%)であり、全国平均約7%からみると、支援を要する方が比較的多く生活されていること、三つ目に産業別の就業数では農業林業に次いで医療福祉

以上のことから邑南町は「日本一の子育て村構想」による取り組みを含め、児童から高齢者、障害者、子育て中の親まで、丸ごと地域住民の皆さんによる支え合いによって、いきいきと生活されている姿が浮かんできます。まさに冒頭のスローガンそのものなのです。

私事になりますが、私は邑南町井原の出身で、高校卒業後は川崎市に住みながら大学で心理学を学んだことが縁で川崎市の福祉行政に34年間従事してきました。今も川崎市内の障害者施設に勤めて3年目になります。そんな中、昨年11月8日に邑南町で障害者支援施設「愛香園」や「くるみ邑美園」などの福祉事業を展開されている社会福祉法人邑智福祉振興会の辰田直久理事長はじめ役員16名の皆様が、研修目的で私の勤務先の福祉施設に来てくださいました。(添付写真)私が邑南町に帰省した折に偶然辰田直久理事長と名刺交換したことが契機であり、同郷のご厚意と思いますが、私にとっ

社の見学であり、農福連携の基本やユニバーサル農業の考え方、取り組み方を学ぶことにあつたようです。ユニバーサル農業とは園芸作業を行うことによる生きがいづくりや、高齢者・障害者の社会参加などを促進する取り組みです。これを法人事業とすることで農業分野における担い手不足と福祉分野における障害者の職域開拓・雇用促進をマッチングする「農福連携」の取り組みにしたいというものでした。これは先にご紹介した邑南町の就業者の大半が農業林業と医療福祉に従事されているという現状にも則しており、「農福連携」の取組みが今後の邑南町の発展に大いにつながるものと思われれます。障害があつても無くても、住み慣れた場所で共に支え合いながらいきいきと暮らせる社会は「福祉」が目指す社会の有り様です。

ところで、現在私の住む人口一五〇万の川崎市は、児童や障害者、高齢者に対する虐待、社会的ひきこもり、うつ病などの精神障害、アルコールやギャンブルといった依存症者、認知症を含む要介護者、そして若者の自死などが増加しており、さらには発達障害者の著しい増加も加わって地

域の相談体制や在宅福祉サービ  
スなどが追い付かない現状にあり  
ます。この背景には多くの方が地  
域の中で孤立し、貧困を含む  
様々な課題を家族が抱えながら  
生活している姿が浮かびます。

現在、我が国は少子高齢化が  
進み、「地域共生社会の実現」の  
ための地域づくりが喫緊の課題  
になっていきます。川崎市はこれか  
ら本格的な少子高齢化を向かえ  
ますし、国籍や文化の違いも住  
民も一層増える傾向にあります。  
このため住民相互が支え合う「互  
助」の地域づくりが最も重要です。  
また、生きづらさを抱えた人の居  
場所、あるいは逃げるための「ア  
ジール」と呼ばれる場所も必要と  
言われており、全国的に衰退傾  
向にある寺院や教会、神社など  
の場や宗教者の存在が見直され  
てきています。

この「地域共生社会」を考える  
時、思い浮かぶのは幼少期に過  
した邑南町の記憶です。山や川  
にまつわる自然体験はもちろんで  
すが、田植え囃子の行列で花笠  
と太鼓を鳴らしながら神社に向  
かって練り歩いたこと、お寺が主  
催した日曜教室でお坊さんが「親  
鸞さんはね：「地獄というの  
はね」と話をしてくれたこと、家族

ぐるみで体育館に集まり夜通し  
石見神楽の演武を見ながら家族  
同士が触れ合っていたことなどが  
よみがえります。ですから私が思  
う「地域共生社会」というのは邑  
南町で感じてきた地域文化その  
もの思えてくるのです。邑南町  
は今もなおその地域文化が脈々  
と息づいていいると感じます。さ  
まざまな理由で生きづらさを抱え  
た人は、川崎市だけでなく全国  
的にも増えています。誰にも言え  
ないところの傷を抱えた人は、こ  
ころを癒し、「アジール」として逃  
げられる場所を求めています。

邑南町の地域文化は、まち全  
体がそういう方々を「アジール」で  
きる機能があるように思います。  
私があえて言うまでもなく、邑  
南町自身がそういう場として自  
覚され、町外からの移住者を受  
け止め、そういう場として生涯を  
終えたいと思える場として、す  
でに地域づくりをされているかもし  
れません。さまざま個性や異  
文化を受け止め、「寛容」できる  
社会はかなり成熟した社会だと  
思います。

そういうことで、私の住む川崎  
市の「福祉」から、私のふるさとで  
ある邑南町の「福祉」を見ると、  
邑南町は川崎市がめざす「地域

共生社会」の理想の場所に見えて  
きます。もちろん都市と地方の  
差はありますが、私のこのころの中  
で描く理想の「福祉」の姿が今の  
邑南町の「福祉」の姿と重なり、  
川崎市が目指す理想の姿として  
つながってくるのです。まさに「福  
祉」でつながる邑南町なのです。

最後に、この度「邑南町ふるさ  
と会」会報の原稿依頼をいただき  
ました。折角の機会と思い、長々  
と勝手なことを述べさせてもら  
いましたこと、お許しください。今  
年度は新型コロナウイルスが蔓延  
したことで定例総会が中止とな  
りました。また、帰省も自粛せざ  
るを得ず、これまで当たり前にし  
ていた日常を失ったことで、しばし  
当たり前の日常の有難さを思う  
日々です。皆様、ご自愛ください。  
合掌。

## 初めての隠岐の島

三宅良二（矢上出身）

私の実家の、かつての交通手段  
は父親の50ccのバイクと、荷台の  
付いた耕運機でした。耕運機で  
派出所の前を通る時に、父親は、  
よく敬礼をして通っていました。

普段は戦争のことを語らない父  
でしたが、終戦後、戦地パプアニュー  
ーギニアから和歌山の田辺港に

引き揚げてきたようで、一杯飲  
むと「敬礼」とよくやっていた  
た。

私の生まれたのは、矢上の萩原、  
下萩原のバスの停留所のすぐ近く  
です。町内でも行ったことのない  
地域がありましたが、島根県内  
も行ったことのないところがたく  
さんあります。隠岐の島もその一  
つ。

へ隠岐は絵の島 花の島 磯に  
や波の花咲く里にや人情の花が  
咲く。

日本海に浮かぶ、しげさ節で  
有名な隠岐の島。西ノ島、中ノ  
島、知夫里島からなる島前と、  
西郷港や隠岐空港のある最大の  
まん丸い島、隠岐の島町の島後。  
昨年訪れました、二泊三日で制  
覇した、欲張りな隠岐の島の旅、  
ご紹介します。

隠岐の島へは、大阪伊丹空港  
から飛行機で行く方法もあるよ  
うですが、初めての隠岐の島、「フ  
エリーの方が、情緒があるよ」との  
ことで、羽田空港から、ひとつ飛  
び、米子鬼太郎空港、七類港か  
ら隠岐汽船のフェリーで隠岐の島、  
西郷港へ。

初日は隠岐の島町の島後を、  
バスでガイドさんの案内を聞きな  
がら、玉若酢神社・八百杉舟

小屋郡→壇鏡の滝→那久岬  
→水若酢神社・隠岐郷土館・五  
箇創生館→重栖港→ローソク島  
へ。

島後の北西の沖合、海面から  
約二十メートルの高さに、そびえ  
立つ奇岩ローソク島。地元の人  
はローソク岩とも。島の先端に夕陽  
が重なるその瞬間、まるで一本の  
巨大ローソクに火を灯したように  
輝く。船上からしか観ることの出  
来ない、というローソク島が一日  
目の最後の観光。当然ながら、季  
節や波の状態、天候によっては、  
見られないことも。当日は、時々  
晴れ間もありましたが、夕方になる



と特に、曇が多い空模様に見  
事に火が灯ったローソク島が見ら  
れるか。

いよいよ、重栖港から、日没に  
合わせてローソク島遊覧船で出  
港。

船にゆられながら、いよいよ撮  
影ポイントへ船が進入します。

「そろそろカメラを用意してく  
ださい」と、船長の声。ローソク島  
と太陽がだんだんと近づいてくる。  
その間も、船は小刻みに前後し  
ながら、船の右後ろの方では「撮  
れた」「いい写真が撮れた」と歓声。  
「三宅さんこっち」と言われ、移動  
しようとしたところ、「今度は左

側の方から見えるようにします」と  
と船長のアナウンス。小刻みに前  
後したかと思ったら、船の向きが  
変わって、私の方からも、ちょうど  
ローソク島のてっぺんに太陽が見え  
てきました。

ところが、潮に流されているの  
か、揺れてなかなかピントが合わ  
ない。窓を開けて外に腕を出して、  
「カシャツ」ようやく写真が撮れた  
瞬間です。それにしても船長は凄  
腕なのです。

みんなに、いい写真  
が撮れるようにと、  
見事な舵さばき。

絵はがき、のように  
撮れた写真は帰京  
後みんなに自慢し  
ようと思います。

ベテラン船長ありが  
とうございました。

今宵はホテルで

夕食の後には、本場  
の隠岐民謡公演。

特にどつきり節のそば  
打ち踊りは、見るの  
も初めてで、そば粉を  
こね、粉を振りかけ、  
蕎麦を切る、その所作  
が、コミカルな楽しい  
踊りでした。蕎麦の  
ように「よくこねられ

た」なんともいえない間。本場の  
唄と踊りと三味線、堪能しまし  
た。

二日目は、西郷港から中ノ  
島・海士町の菱浦港へ。定期観光  
バスで隠岐神社→後鳥羽院資料  
館→金山寺山→明星海岸。

へ遠い昔を今もなお忍ぶ後鳥  
羽後醍醐 歴史に残る隠岐の島  
後鳥羽上皇ゆかりの隠岐神社で  
は記念に御朱印を頂きました。



西ノ島は牛が放牧されて、のんびりとした風景です。私の父親は家畜商(牛の博労)をしていた関係で、一度、隠岐の島に行ったことがあり、たくさんの牛が、放牧されている風景を見たようでした。

我が家も、猫の額ほどですが、山の斜面に柵を張り、牛を放し飼いにしていました。放牧されている牛は、行く先々で道路の真ん中に寝ていたりして、車にも驚く様子もなく、悠々としたものです。道路をふさがれて、迂回もしましたが、船の時間が気になって、とうとう赤壁には、行けずじまい。

三日目は西ノ島観光。国賀海岸めぐりは幸運なことに、明暗の岩屋を通過することもできました。二五七メートルの切り立つ断崖、摩天崖の景観は圧巻。

盛りだくさんの、二泊三日の隠岐の島の旅。  
記念に相撲甚句を。  
隠岐の島名所  
へハーエー

隠岐は良いとこ一度はござれよ  
へハーエー島前島後の隠岐の島  
名所旧蹟 数あれど  
五箇の明神 下西の  
総社に聳ゆる八百杉に  
名水壇鏡の滝に

夕陽が燃えるローソク島  
国賀海岸波しぶき  
摩天崖やら通天橋  
荒波洗う赤壁に  
赤ハゲ山は 知夫里島  
牧場じゃ牛が悠々と  
手に汗にぎる 牛突きに  
後鳥羽後醍醐にしえの  
焼火権現 黒木御所  
由良比女神社に隠岐神社  
隠岐は絵の島 唄の島  
どつさり節に しげさ節  
皿踊りやら キンニヤモニヤ  
古典相撲も今もなお  
今じゃ人気のヨーホホエ  
ハーエー隠岐の海ヨ

**故郷の米を買いゅちゃんさいよ**

今年も美味しいお米を食べて頂こうとふるさとのお米をご紹介します。コシヒカリまたはキヌムスメです。お届けするお米は、冷温庫に玄米で保管され、その都度精米されています。玄米での発送や小分けも可能とのこと。

従来は事務局で受け付けておりましたが、昨年より直接、口羽をておする会にご注文して頂くことになりました。  
六九六〇〇〇六三  
邑南町邑南町下口羽四八〇一  
口羽をておする会 事務局小田博之

☎&FAX 〇八五五―八七―〇五〇一  
eメール kuchihaproject@hant.jp  
http://kuchihaproject.main.jp/kuchiba/

コース	内容(玄米重量)	
12回コース	1	毎月10kgずつ×12回 ¥53,100(443/k)
	2	毎月5kgずつ×12回 ¥30,600(510/k)
6回コース	3	隔月15kgずつ×6回 ¥37,800(420/k)
	4	隔月10kgずつ×6回 ¥26,600(443/k)
	5	隔月5kgずつ×6回 ¥15,300(510/k)
その都度コース	6	1度に20kg ¥8,200(410/k)
	7	1度に15kg ¥6,600(440/k)
	8	1度に10kg ¥4,600(460/k)
	9	1度に5kg ¥2,700(540/k)

25kg以上は重量郵便物となり割高です。玄米、7分づき等ご希望に応じます。

**編集後記**

今年も暑い夏が終わり、朝夕は、涼しくさえ感じられるようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。昨年は、台風で大変な年でしたが、今年は連日新型コロナウイルスの話題一色です。完全終息には数年かかるという方もいます。私は、一昨年、子供も就職して子育ても終わり、舞台も増えてきましたので、三十年務めた会社を退職し、民謡を牛業とし始めました矢先、このコロナ禍で、三月一日の舞台を最後に、年内全て中止

なり、家にいることが多くなりました。「今更だが、幸せだったんだ」とつくづく思います。この数年、浅草の安来館興行の他、年に四〜五回の興行をしておりましたが、しばらくは難しい状況です。そんな中、先日、年配(八十歳くらい)の方から、「三宅さん、コロナの終息待とうたら、何年かかるかわからんよ」「私しらあにゃあ、一年一年が貴重だけえ、ムタにゃあできんのよ」「対策キチンとして、頑張つて、やりんさいよ」と言われ元気づけられました。一念発起して、来年の計画を立て、会場場の申し込みを始めたところです。

今年にも原稿をお送り頂いた皆様有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。毎回皆様からの原稿をお待ちしております。テーマは自由身近なことから、専門的なこと、その節には、協力の程、どうぞ宜しくお願いします。十分注意しておりますが誤字脱字や、見づらいところもあろうかと思えます。どうぞお許し下さい。お気づきの点がありましたら何なりと申し付け下さい。来年の総会は今までにない、内容で大勢の方に来ていただけるよう役員の皆様と相談しております。11月の予定です。楽しみにしてください。いよいよ秋本番、もうすぐ紅葉の季節。コロナ禍での生活は何かと不自由がありますが、時節柄どうぞご自愛下さい。  
三宅良二(矢上下萩原梅吉屋三男)